

愛の友協会理事長賞

静岡県／16歳／女性／高校生

はやし あすか

林 明日香 様

✉手紙の相手：親友

周りから見たら「あの二人はそこまで深い関わりはないのだろう」と思われるだろう。自分でも思う。不仲なのかもしれない。小学三年生からの付き合いだが中学二年生にクラスが離れてからほとんど話さないし目も合わさないことだってよくあった。普通の親友の定義はお互いの名前を一番多く呼び合うことだと思う。私たちが出会って十年間のなかでお互いの名前を呼んだのは両手で数えられるくらい。こんなに不仲に見えるのに私にとって君が親友だと思えるのは何故だろう。高校が離れた今でも分からない。

小学生の頃は毎週末のようにお小遣いの二〇〇円を握りしめて近所のショッピングモールに遊びに行き、アイスを買ってフードコートで食べる。私たちの唯一の共通のゲーム機だった3DSで笑い合う。今思えば、お互い違うゲームをしていても大笑いできていた理由がとても謎。どこにでもありそうな日常だ。でもこのありふれた日常が今となってはたまにしか会えない存在になっていることで簡単

に会えていた日々がどれだけ宝石のような日々だったか思い知らされた。大したエピソードもないほど話の内容は薄かったけれど過ごした時間の密度は高い。

君は勉強も運動も出来てみんなから慕われる真っ赤な太陽のような存在だが私は全てにおいて平凡だ。似ているところは特にないが太陽と月のような関係性だと思ってる。君が私を照らしてくれる。一緒に過ごす時間が長かったときのことはほとんど覚えていない。ただ君と過ごした時間は何よりも私の心に光を当て、虹をかけていた。

名前を呼びたくないわけではない。親友だと思っているからこそ呼べない。名前を呼び合わなくても、口数が少なくても君となら通じ合えると思っている。私に対する気持ちは分からないけれど私と出会ってくれてありがとう、桃加。

✉手紙への想い✉

私にとってこの友人に出会ってくれた感謝を伝えることはとても勇気がいることで、物理的な距離が離れた今やこれから先で感謝を伝える勇気が出る保証はない。声ではなく手紙であれば素直に伝えられるという感謝の想いで書きました。